

# イシガメ

*Maureys japonica* (カメ目イシガメ科)

(写真準備中)

## 生態情報

### I からだの特徴

甲羅の長さは13～20 cmです。背側は平らで黄土色または黄褐色、お腹側は黒色です。背側の後ろの縁はギザギザになっています。頭の横には黒い不規則なラインが入ります。

### I すみ場所

本州、四国、九州およびその周辺の島々に分布しています。日本固有種です。池沼や水田、河川では上流から中流にすんでいます。

### I 生活のようす

産卵の時期は6月～7月です。産卵場所は河川であれば土手のような場所、池であれば付近の畑や畔などで6個前後の卵を産みます。泳ぎは巧みで、行動は意外とすばやいです。餌は雑食性で魚やザリガニなどの甲殻類、川虫(水生昆虫)、水草なども食べます。

## 参 考

「長野県版レッドリスト」で希少な爬虫類として指定されています。

「ゼニガメ」と呼ばれているカメは、イシガメの子供のことです。

# トカゲ

*Eumeces latiscutatus* (トカゲ目トカゲ科)

(写真準備中)

## 生態情報

### I からだの特徴

からだの大きさは20～25cmで、ずんぐりしたからだの形と滑らかなうろこが特徴的です。成体(親)と幼体(子供)はからだの色が違います。幼体のしっぽはきれいな青色をしています。しっぽは大変切れやすく、捕まえようとすると、身を守るために押さえつけただけで、しっぽを切って(自切)しまいます。しっぽはまた再生してきますが、幼体の場合は再生したしっぽも青くなります。

### I すみ場所

北海道、本州、四国、九州と周辺の島々に分布し、草地や石垣、日当たりの良い斜面などでよく見かけます。隠れ場と日光浴ができる場所があれば市街地などでも見られます。

### I 生活のようす

産卵の時期は5月下旬～6月上旬です。産卵場所は石の下や土手の斜面で、5～16個の卵を産みます。メスは卵を産まれるまで世話をします。餌はミミズやクモ、ワラジムシ、コオロギを食べます。

## 参 考

人になじみのあるトカゲで、普通にみられる動物です。

ニホンカナヘビに比べると非常に素早い動きでなかなか捕まえることができません。

## シマヘビ *Elaphe quadrivirgata* (トカゲ目ヘビ科)

(写真準備中)

### 生態情報

#### Ⅰ からだの特徴

からだの長さは 80～150cm でオスのほうがメスよりも大きいです。からだの色は黄褐色、首からしっぽにかけて4本の黒いすじがあります。なかには黒いすじが薄いものやないもの、真っ黒なシマヘビ(カラスヘビと呼ばれる)も見られますが、同じ種類です。

#### Ⅱ すみ場所

北海道、本州、四国、九州に分布し、平地から山地、水田、山道、畑、民家までいろいろなところで見つけることができます。

#### Ⅲ 生活のようす

産卵の時期は7月～8月で、4～16個の卵を産みます。活動の場所は主に地表で、昼間にカエルやトカゲ、ネズミ、ヘビなどを食べます。人に見つかるとうがい早さで草むらなどに隠れてしまうので意外に臆病なところもありますが、性格は荒く捕まえたときはだいたいかみついてきます。

### 参 考

地上での生態系では比較的上位のヘビで、人にぶじみのある動物です。毒をもっていないヘビですが、かまれるととても痛いので注意が必要です。

## ヒバカリ *Natrix vibakari* (トカゲ目ヘビ科)



現地撮影

### 生態情報

#### Ⅰ からだの特徴

からだの長さは 40～60cm で、背面は褐色または茶褐色です。口から頸部にかけて、斜めに淡黄色の帯が入ります。お腹は黄白色で、頭は比較的小さく、目は丸くてかわいらしい顔つきをしています。

#### Ⅱ すみ場所

本州、四国、九州に分布し、森林から平地まで幅広い環境にすんでいます。特に水田や湿地などの水辺に多くみることができます。

#### Ⅲ 生活のようす

産卵の時期は5～6月で、卵は4～10個を産みます。おもに早朝や夕方に活動し、餌はカエルやオタマジャクシ、ドジョウ、小魚などを食べます。性格は温和で無毒のヘビですが、追い詰められたりすると首をS字に曲げて、咬み付くような威嚇行動をします。

### 参 考

「長野県版レッドリスト」で希少な爬虫類に指定されています。

ヒバカリはかつて毒のあるヘビだと考えられていたことがあり、「咬まれれば、命はその日ばかり」といわれたことから、ヒバカリの名があります。

# ヤマカガシ

*Rhabdophis tigrinus tigrinus* (トカゲ目ヘビ科)

(写真準備中)

## 生態情報

### I からだの特徴

からだの長さは70～150cmの普通にみられるヘビです。からだの色は褐色の地色に黒色の模様がありますが、色や模様は地域によって違いがあります。幼蛇(子ヘビ)は首のところに黄色い模様があります。

### I すみ場所

本州、四国、九州に分布し、平地の水田や小川、湿地などに多くすんでいます。

### I 生活のようす

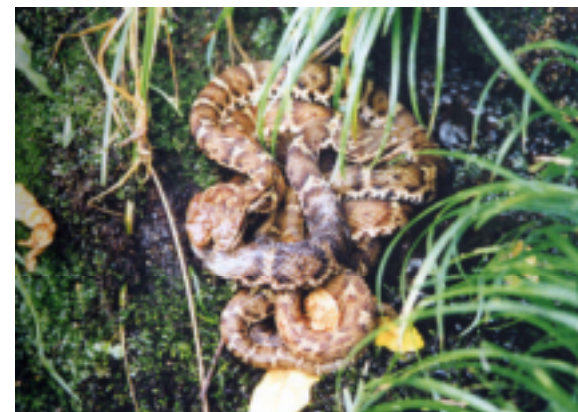
産卵の時期は6月～8月です。卵は6～43個の小さな卵を産みます。おもに昼間に活動しています。餌は小魚、オタマジャクシなども食べ、ヒキガエルのような大きな動物も食べます。敵に襲われたときは、体の前半分をふくらませたり、首を平たくしたり、おじぎのようなポーズをして敵をおどかします。

## 参 考

地上での生態系では比較的上位のヘビで、この地域を代表する動物です。毒をもっているヘビなので注意が必要です。

# マムシ

*Agkistrodon blomhoffii* (トカゲ目クサリヘビ科)



現地撮影

## 生態情報

### I からだの特徴

からだの長さは40～65cmの毒をもったヘビです。背中の上側に楕円形の模様を持っています。アオダイショウの幼蛇(子ヘビ)とよく間違えられますが、マムシの頭は三角形を長くしたような形で大きいので区別ができます。

### I すみ場所

沖縄県を除く、北海道、本州、四国、九州に分布しています。日本固有種です。平地から高地の森林、ヤブ、草地などに広くすんでいます。

### I 生活のようす

出産は8～10月です。他のヘビのように卵を産まず、子ヘビを産む卵胎生で5～6匹を産みます。夜行性で、冬には冬眠をします。餌はカエルや小型動物を食べています。

## 参 考

地上での生態系では比較的上位のヘビで、この地域を代表する動物です。毒をもっているヘビなので注意が必要ですが、捕まえたり、棒などでついたりしなければ、滅多にかむことはありません。ただ、草むらなどを歩く時は、十分注意しましょう。